



東北大学大学院歯学研究科

歯学部

病院歯科部門

NEWSLETTER

第8号 Jan 2012



前進／歯学研究科・歯学部の発展を期待して

歯学研究科長・歯学部長 佐々木 啓一



はじめに

暦的には例年のごとく年明けとなりましたが、今なお東日本大震災の傷跡は生々しく、被災地では厳しい冬を迎えています。それでも、さまざまな方面で復興へ向かっての着実な歩みが見られるようになってきました。歯学研究科そして大学病院歯科部門も、震災発災以降、多くの困難に見舞われましたが、教職員、学生諸君の献身的な努力と協力のもと、何とかここまで来ました。本稿では、歯学研究科のこの間の歩み、そしてこれからの計画を皆様にご報告したいと思います。

【施設の改修・復興】

震災で大きな被害を受けました施設関連ですが、改修中であった臨床研究棟は、地階から4階東北側一部までの改修工事が一段落します。1階には事務室や各種のアドミニ関連の部屋、学生控室、そして最大で150名程度収容可能な大会議室が設置されています。2階、3階、4階は分野等の研究室、研究ラボが入ります。なかでも共同実験ラボ（仮称）は、研究科全体で使用する共通機器を配置、出入室管理システムや機器の使用簿などのシステムを導入し、効率的な運用を図りたいと考えています。しかし今後、4階から上層階の改修が始まりますので、ここに位置していた各分野の研究施設もいったん取り込む必要が生じており、現在、研究企画推進室長の福本教授を中心に、最終的な運用を鑑みた当面の運用システムの構築が図られています。

4階から上の改修は、24年度概算で要求しておりましたが、このたび3次補正予算で工事費が措置され、少し竣工が早まりそうです。11月に竣工を見たプレハブ棟（第二臨床研究棟）は面積も小さく、また駐車場スペースを狭めてしまい、皆様には大変なご不自由とご迷惑をおかけしておりますが、これからの臨床研究棟改修には是非とも必要な措置でした。今後の改修でさらにご迷惑をおかけすることとなり、心苦しい限りですが、どうかご理解ください。基礎研究棟につきましては、補正予算にて地震での被害の復旧工事が入ります。本格的な改修に着手しなければならないものと認識しておりますが、改修が続きますと皆様にまたご迷惑をおかけすることとなります。皆様のご意見を聞きながらの決断となるものと思います。

【インターフェイス研究プロジェクト】

また、来年度からの概算要求特別経費プロジェクト分（大学の特色を活かした多様な学術研究機能の充実）として歯学研究科から要求しておりました「生物－非生物インテリジェント・インターフェイスの創成」事業が採択される予定です。震災復興予算が巨額に計上され、他の継続事業の研究経費が大幅に削減されているなか、予算は減額されたものの本力テグリーでは東北大学から唯一の新規採択となります。本事業は、名称からも明らかなように「生体－バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業」の後継プロジェクトであり、これまで実績を積んできました「インターフェイス口腔健康科学」を基盤として、研究科を挙げて、医工学研究所、金属材料研究所と新たな研究チームを構成し、学際的な異分野連携研究を進めることとなっています。ちなみに、このような研究プロジェクトでの特別経費の獲得は、歯学領域では先の「高機能インターフェイス」が初であり、他大学にはないものです。

【国際連携大学院教育プログラム】

同じく来年度の概算要求として挙げておりました「東アジアにおける歯学イノベーションリエゾン」は採択されませんが、東北大学ならびに文科省からは高い評価を受けており、今年度から総長裁量経費の応援を受けて推進している大学院教育プロジェクトです。具体的には中国、韓国の有力歯学系大学院との間でダブル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）、すなわち1人の大学院生が2つの大学の大学院生となり、両校の教員陣による共同教育を行い、条件を満たせば両校からの学位を取得できるプログラムを開発・実施することをメインとして教育・研究の連携を進め、それにより東アジア共通の基盤（東アジアスタンダード）に基づく歯学・歯科医療を確立、歯学イノベーションを図ろうというものです。DDプログラムでは、在学中に相手校へ一定期間留学し、共同研究を進めます。既に連携先との交渉は、昨年の第4回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウムの前から始めており、中国の歯学教育研究の2トップ：北京大学、四川大学へは12月に訪問し合意に達しており、24年度からの実施を目指しています。

【歯学イノベーションリエゾンセンター】

上記の学際的なインターフェイス研究、国際連携教育の推進、そして今回の震災でもその重要性が認識されました歯科医療・口腔保健の地域連携の推進の3つが、歯学研究科・歯学部として講座・分野の枠を超えて組織的に対応すべき主な事項です。そこで歯学部では、それぞれに対応するインテグレーションリサーチ部門、国際連携部門、マルチセクション地域連携部門から構成される歯学イノベーションリエゾンセンターを総長裁量経費の援助を得て23年4月に設置しました。現在のところ専任教職員は3名ですが、彼らを中心として組織的活動の充実を図っています。来年度以降、概算要求の継続、大学経費の獲得ならびに部局長裁量経費等での支援を継続しなければなりません。

【震災復興関連事業】

23年度補正予算や概算要求復興枠では、多くの震災復興関連事業が組まれています。歯学研究科が関わる事業も多く、厚労省の被災者健康調査事業もその一つです。また被災した医師、歯科医師、医療関係者の研修、教育と災害医療を構築することを目的として「総合地域医療研修センター」事業が1月から開始されました。研修センターは民衆会館の改修により設置予定ですが、歯学研究科も参加しており、専任助教1名、高度専門職業人1名の採用とシミュレーション研修設備を導入する予定です。さらに加齢医学研究所を中心とする概算要求（復興枠）「被災動物の包括的線量評価事業」にも参加しています。歯、顎骨という硬組織からの放射線線量評価で、篠田名誉教授を中心に研究科・病院の教員が福島県内の野生化したウシの捕獲から始まる被検体採取に既に昨年10回出張しております。大型予算であり、歯学研究科への配分は未定ですが、人的、物的な支援がなされるのではと期待しております。

これらの他、厚労省、経産省関連でも多くの復興関連事業、特に医療関連事業が動いており、歯学研究科もそれらの獲得と実施へ向けて活動中です。

【教育研究組織の活性化】

これまで述べましたように歯学研究科では現在、震災復興という面はありますが、ある意味、これまでにない高い活性を示しています。プロジェクト関連経費などの外部資金獲得も多くなり、時限ですが教員枠を確保することが可能になっています。さらにこれまでの外部資金獲得の恩恵もあり、B棟改修や病院外来棟整備での本部からの借入金も既に完済しましたので、今後は中央経費に少し余裕が出そうです。これらを資源として教員人事の流動化、具体例としては活性の高い若手研究者へキャリアを開くべく、時限的な教員採用枠を設けることなども可能ではないかと思われます。また大講座構想の中での分野教授選考人事も積極的に進めるべき時期に来たものとの認識が高まっていますし、准教授、講師、助教採用も含め、教員人事が活発化するものと期待しています。

おわりに

昨年は、あまりにいろいろなことがあり過ぎた1年でしたが、今年は充実へ向かっての前進の1年になればと考えています。但し、改修工事に伴う移動や各種プロジェクトの獲得などは従来の業務に加わる負荷となっており、多くの方々からご批判をいただいていることも事実です。何もしないことが一番という決まり文句が、今、しみじみ身に沁みています。至らないところが多い部局長であり、皆様に多大なご迷惑、ご面倒をおかけいたしておりますが、ご意見、ご批判をいただければしっかりと対応していきます。今年もよろしくご指導のほど、お願いいたします。

臨床研究棟及び第二臨床研究棟が竣工

歯学研究科の念願でありました臨床研究棟の改修は、地階から3階までの工事が文科省の「平成22年度一般会計経済危機対応・地域活性化予備費使用について」に基づき、国立大学法人施設の耐震化を図る事業として採択されました。それにあわせて、病棟の大学病院への統合時に手付かずとなっていた4階フロアの一部の改修を「総長裁量経費」の支援を受けて、平成22年12月に着工しました。

平成23年3月竣工予定だった工事は、東日本大震災により建物が大きな打撃を受けたことや人員、機材、資材等の不足もあり約3ヶ月の中断を余儀なくされました。その後の工事でもさまざまな課題に直面し、非常に困難な道のりではありましたが、関係者のご協力により急ピッチで工事が進められ、一部外溝工事を残してはいますが、平成23年12月19日に建物改修部分の引渡しを受けました（右の写真）。

また、大震災により損壊が著しかった臨床研究棟5階から8階までの応急対応として工事が進められていた応急プレハブ研究棟（第二臨床研究棟）の建築工事は、11月15日に引渡しを受け、臨床研究棟から6分野が移転しました。

臨床研究棟の未改修となっている高層階部分については、復旧復興をキーワードに平成24年度の施設整備費概算要求に盛り込まれておりましたが、今般、第3次補正予算で工事費が措置されたとの連絡を受けたところで、す。

この一連の改修では、歯学イノベーションリエゾンセンター（国際連携部門、マルチセクション地域連携部門、インテグレーションリサーチ部門）、共同実験ラボ、レンタルラボなどを効率的に配置し、その完成とともに歯学研究科が提唱するインターフェイス口腔健康科学、生物-非生物インテリジェント・インターフェイス科学の推進による学際融合歯学教育研究・産学連携研究を活性化させ、高度専門職業人の育成、バイオマテリアル・ナノテクノロジー等を駆使した高度先端歯科医療の開発などの更なる進展が望まれます。

（文責：事務長 丸山正彦）



【臨床研究棟：改修分】

4階	総合歯科診療部、障害者歯科治療部、顎口腔機能治療部、口腔ケア推進開発寄附講座、インテグレーションリサーチ部門
3階	小児発達歯科学分野、顎口腔機能創建学分野、レンタルラボ、セミナールーム、共同実験ラボ、次世代歯科材料工学寄附講座、生体適合性計測工学寄附講座
2階	歯科口腔麻酔学分野、生化学・細菌実習室、教育ラボ、共同実験ラボ
1階	研究科長室、総括副院長室、事務長室、国際連携部門、マルチセクション地域連携部門、アドミニ室、学生控室、情報システム推進室、女子休憩室、大会議室、小会議室、セミナールーム、事務室、食堂
地階	研修医控室、学生・研修医・職員等ロッカールーム

【第二臨床研究棟】

2階	顎顔面外科学分野、歯内歯周治療学分野、顎口腔矯正学分野
1階	歯科保存学分野、予防歯科学分野、口腔外科学分野

国際歯科保健学分野の研究紹介



准教授 相田 潤

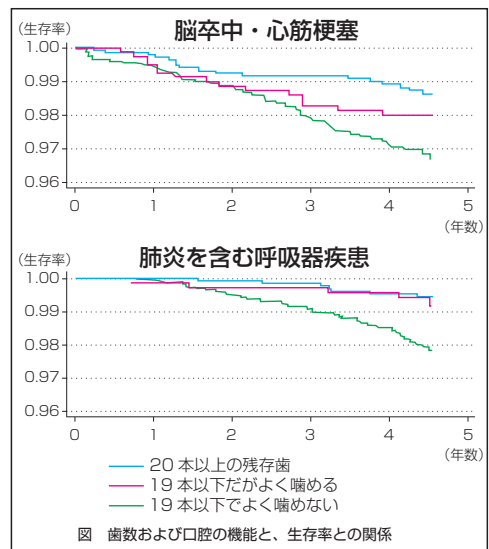


教授 小坂 健

国際歯科保健学分野では、疫学により口腔と人と社会のインターフェイスに関する研究を行っています。疫学は、人とその集団である社会を対象にして、病気のリスクや健康を増進する要因を検討することを目的とします。基礎研究の知見は、実際の社会で生活する人々を対象とした疫学研究により確認される必要がある場合もあります。例えば、齲蝕関連菌の1つであるミュータンス菌について母と子で相同性が高いことが遺伝子解析で指摘されており、そのため、親から子への口移しを控えるなどの感染予防行動が一部学会ホームページや、育児雑誌などにも紹介されています。しかし、「感染予防行動によって、本当に齲蝕が予防できるかどうか」は明らかになっていません。私たちが行った約3,000名の齲蝕に関する横断研究では、齲蝕の原因菌の、親から乳幼児への感染を予防する行動は、子どもの齲蝕発生に関係しないことが示されました（Caries Res 2011年）。そもそもミュータンス菌だけが齲蝕の原因菌ではありませんし、「人への保健指導の内容が、実際に生活する人による研究に基づいていない」ことは時に問題となる可能性を含むでしょう。

最近の全身と口腔の関係を調べた研究として、私たちは先進国の主要な死因である脳卒中・心筋梗塞や、肺炎が多くを占める呼吸器疾患と口腔状態の関連について調査を行いました。4年間追跡できた4,425名のデータから、歯数が20本以上の人に比べて、19本以下でよく噛めない人は、主要な死因により生存率が低い傾向が示されました（図）。全身の健康状態、生活習慣、社会経済状態が同等の人で比較した場合でも、脳卒中・心筋梗塞による死亡の危険性は83%、呼吸器疾患による死亡の危険性は85%、増加しました（J Dent Res 2011年）。この結果、歯を失うことや噛めなくなることによって、先進国の主要な死因による死亡の危険性が高まることが明らかになりました。口腔の健康を保つことは、これらの死亡原因のリスクを低下させる可能性があることが示唆されました。また同様の研究により、口腔状態が良好な場合、要介護状態になる可能性が低いことも明らかにしています（J Am Geriatr Soc 2012年）。

国際歯科保健学分野では、疫学研究を通して、口腔と全身の関係や、歯科疾患の地域格差、実際の社会で機能する歯科疾患の予防方法の検討などを行っています。



病院歯科部門における専門的な診療と先進医療について

副病院長（歯科部門） 五十嵐 薫



東北大学病院は高度先端医療を実践する特定機能病院であり、歯科部門においても、一般の歯科医院等では対応が困難な特殊な症状に対する専門的な診療を数多く実施し、先進的な医療技術で保険診療との併用が可能な先進医療も4件認定を受けております。本欄ではこれらの一

部について概要を紹介させていただきます。該当する疾患でお困りの患者様がいらっしゃいましたら、是非当院歯科部門にご紹介ください。

①口腔顔面痛（歯科口腔外科）

口腔顔面の慢性痛や違和感に対し、専門医が構造化された痛みの問診と診察、各種検査から原因疾患を診断して、疼痛治療（疾患によって医科と連携）を行っています。

②味覚障害（口腔診断科）

当診療科で開発した「うま味検査法」を加えた基本味（甘味、酸味、塩味、苦味、うま味）感受性検査等を行い、味覚診断と治療を行っています。

③口臭（予防歯科）

当診療科では1980年に口臭外来を開設し、独自に開発した口臭測定器等を用いて個々の患者様の問題を詳細に分析し、きめ細かい口腔ケアと支援を行っています。

④全身麻酔下での歯科治療（歯科麻酔疼痛管理科・他）

歯科治療恐怖症、歯科治療に非協力的な小児や知的障害者、異常絞扼反射（嘔吐反射）、インプラントの一次手術（多数歯）や複数歯の同時抜去などを対象として、全身麻酔下での一括歯科治療を行っています。

⑤インプラント義歯（歯科（インプラント外来））

人工歯根（インプラント）を顎骨に埋入することで維持を求め、その上に義歯を装着する治療法で、腫瘍、顎骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨欠損もしくは歯槽骨欠損、顎骨の過度の吸収が全顎にわたって認められる無歯顎のいずれかで、従来のブリッジや可撤性義歯による補綴が困難な症例が対象になります。

1. 専門的な診療

症状・処置	担当診療科・部
口腔顔面痛	歯科口腔外科
味覚障害	口腔診断科
ドライマウス	口腔診断科
口臭	予防歯科
金属アレルギー	保存修復科
歯の漂白	保存修復科
顎関節症	高齢者歯科治療部 歯科顎顔面外科 歯科口腔外科
睡眠時無呼吸症候群	咬合回復科 矯正歯科
歯周補綴	咬合修復科
構音障害	顎口腔機能治療部
全身麻酔下での歯科治療	歯科麻酔疼痛管理科・他

2. 先進医療

医療の名称	担当診療科・部
インプラント義歯	歯科（インプラント外来）
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除術	歯周病科 歯内療法科
歯周外科治療におけるバイオ・リジエネレーション法	歯周病科 歯内療法科
顎顔面補綴	顎口腔再建治療部

※新患の予約お申込には地域医療連携センター
<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/tiikiyou/tiikiyou.html>
 (Phone:022-717-7131, Fax:022-717-7132) をご利用ください。



掲示板

詳細は歯学研究科ホームページ(HP)をご確認ください。

<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

これからの主な行事

平成23年度

2月4日(土)・5日(日) 歯科医師国家試験
2月25日(土)・26日(日) 大学入試(個別学力試験)
3月8日(木) 大学入試合格発表
3月9日(金) 最終講義、医学部・歯学部合同遺骨返還式
3月19日(月) 歯科医師国家試験合格発表
3月27日(火) 学位記授与式、卒業祝賀会、謝恩会

平成24年度

4月5日(木) 入学式、歯学研究科オリエンテーション
4月6日(金) 歯学部オリエンテーション
6月22日(金) 創立記念日
7月19日(木) 5年生CBT実施
7月21日(土) 5年生OSCE実施(予定)
7月30日(月)・31日(火) オープンキャンパス
8月1日(水)～13日(月) 全日本歯科学学生総合体育大会
10月30日(火) 医学部・歯学部合同慰霊祭

平成23年度がんプロフェッショナル養成コース

口腔がん健診特別研修コース

研修場所：歯学研究科B1講義室

対象者：歯科医師、医師、口腔内を観察する機会が多い専門職の方等
期間：平成24年1月22日(日)・29日(日)10時～16時

がん口腔ケア特別研修コース

研修場所：山形市男女共同参画センターファースト

対象者：歯科衛生士、看護師等の口腔ケアを実践できる資格を有する方

期間：平成24年3月11日(日)9時30分～16時30分

連絡先：東北大学 大学院歯学研究科 予防歯科学分野 小関健由
Phone：022-717-8327 Fax: 022-717-8332

東日本大震災関連のお知らせ

●歯学部榊原育英奨学生証授与式(2011年8月4日)：東日本大震災により被災した学生に対して学資を給付し就学を支援することを目的として、榊原克次先生から多大なご寄附を頂戴し、東北大学歯学部榊原育英奨学金が創設されました。選考の結果、5年生2名(遠藤美里さん、星野文美さん)が採用され、奨学生証が授与されました。

●宮城県警からの表彰(2011年11月2日)：東日本大震災に際し、積極的に歯科医師を派遣し、検視体制の構築に寄与するなど歯科所見による身元確認活動においての多大な貢献が認められ、本研究科に対し感謝状が贈呈されました。

平成24年度 歯学研究科 大学院生募集

平成24年度4月入学3次募集

募集人員：博士課程：若干名 修士課程：若干名

出願期間：2月13日(月)～17日(金)

試験日：3月1日(木)

今後の募集については下記URLを参照して下さい。

<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

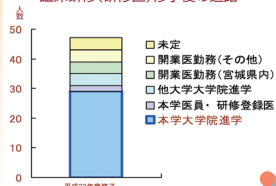
※申請手続き等問い合わせ先

東北大学大学院歯学研究科 教務係

Phone：022-717-8248

Fax：022-717-8279

臨床研修(研修医)修了後の進路



平成25年度 臨床研修医(歯科医師)募集

最新情報は平成24年4月ごろ更新されますので下記URLを参照して下さい。

http://www.hosp.tohoku.ac.jp/sotugo/sotugo_sika.html

※申請手続き等問い合わせ先

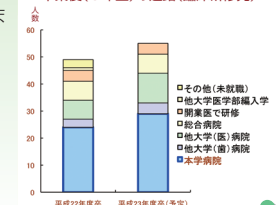
東北大学病院 卒後研修センター

Phone：022-717-7765

Fax：022-717-7143

E-mail：hos-sotu@bureau.tohoku.ac.jp

卒業後(6年生)の進路(臨床研修先)



人事報告

昇任	10月	水田健太郎	講師	歯科口腔麻酔学
	11月	相田潤	准教授	国際歯科保健学
	11月	池田悦子	講師	病院矯正歯科
新規採用	10月	三好慶忠	研究助教	加齢歯科学
	11月	宮島悠旗	研究助教	顎口腔矯正学
	1月	富士岳志	助教	総合地域医療研修センター
	1月	小嶺祐子	助教	加齢歯科学→厚労省(関東信越厚生局)
出向	9月	福永智広	講師	病院矯正歯科
辞職	10月	福永智広	講師	病院矯正歯科
定年退職	3月	越後成志	教授	口腔外科学
	3月	川村仁	教授	顎顔面外科学
	3月	小松正志	教授	歯科保存学
	3月	林治秀	教授	口腔生理学
	3月	田浦勝彦	講師	病院予防歯科

最近の各種学会受賞

- 日本歯周病学会奨励賞：金谷聡介(歯周病科・医員)
- インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム優秀ポスター賞：金 始瑛(顎口腔矯正学・大学院生)、土谷昌広(加齢歯科学・助教)、白石大祐(歯内歯周治療学・大学院生)、岩間張良(歯内歯周治療学・大学院生)、塩飽由香利(口腔システム補綴学・学振DC2)、河田恵子(歯内歯周治療学・学振DC1)
- ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞：サイエンスエンジェル：塩飽由香利(口腔システム補綴学・学振DC2)
- 日本骨代謝学会優秀ポスター発表賞：田中志典(口腔分子制御学・学振PD)
- 日本口腔外科学会学術奨励賞：川井 忠(口腔外科・医員)
- 日本矯正歯科学会学術奨励賞：清流正弘(顎口腔矯正学・助教)
- 日本学術振興会 特別研究員 に採用！
- 平成24年度から新規採用：河田恵子(歯内歯周治療学・DC1)、二本正晴(小児発達歯科学・DC1)、坂東加南(顎口腔矯正学・DC1)
- 平成23年度現在の採用者：田中志典(口腔分子制御学・PD)、塩飽由香利(口腔システム補綴学・DC2)、金原正敬(顎口腔矯正学・DC1)、佐藤 匡(歯内歯周治療学・DC1)

お知らせ

- ・キャンパス内全面禁煙化(2011年10月1日から)：左はキャンペーン・ポスター
- ・宮城県美術館キャンパスメンバーズ制度(2011年10月1日から)：本学の学生証/職員証の提示で特別展が半額で観覧可能

編集後記

Newsletter 第8号は、臨床研究棟の改修・竣工、各種学会受賞、特別研究員・奨学生への採用、キャンパス内全面禁煙化の実施など、多彩な内容となっております。「キャンパス内全面禁煙化に併せ、教授会構成員にも率先して禁煙を推進して欲しい」とは産業医の先生の言葉です。皆で禁煙の機運を盛り上げ、教育研究・診療に邁進して参りましょう。今後、Newsletterに掲載ご希望の情報がございましたら、お近くの編集委員までお知らせ下さい。(記 佐藤)

編集委員 佐藤拓一、奥山弥生、清水良央、遠藤英昭、小関健由

東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

Phone/Fax：022-717-8318

URL：<http://www.dent.tohoku.ac.jp/> E-mail：newsletter@dent.tohoku.ac.jp

この印刷物は、環境にやさしい大豆油インキで印刷しています。